

発行責任者

公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会

湘南支部長 中尾 剛久

茅ヶ崎市赤羽根 2661 - 26

Tel : 090-4897-4074

隊 友

湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「部隊研修について」(その3)

湘南支部長 中尾 剛久

名寄駐屯地には「第三即応機動連隊」、「第四高射特科群」ほか複数の部隊が駐屯しています。名寄市は全国でも有数の自衛隊に理解のある自治体とのことで、名寄市自らが「自衛隊のまち なよろ」を標榜しています。とは言え、名寄の自然環境は厳しく、夏の三五度から冬のマイナス二九度まで、実に六〇度の気温差があるということです。これまで老朽化した施設が悩みの種でしたが、四〇五年後には建替えが進む計画とのことでした。名寄駐屯地も札幌などの都会からは遠いため、陸士を中心にして希望する隊員が少なく、駐屯地全体での陸士の組成比率は一〇%以下であり、幹部自衛官より少ないとのことでした。旭川の第二師団で聞いた話と合わせると、これまで陸上自衛隊、それも北海道の部隊はヒト、モノ両面で充実しているとの印象を持っていましたが、反対に人員確保に苦慮している姿が浮かび上がってきました。

北海道の最北端、稚内には陸上自衛隊の第三〇一沿岸監視隊等、海上自衛隊の稚内基地分遣隊、航空自衛隊の第一八警戒隊等が同一敷地内に所在しています。現役時、海上自衛隊の稚内基地分遣隊にしか行ったことがなかったのですが、その敷地の意外な広さに驚きました。また、三自衛隊の部隊はそれぞれ任務が異なり、オペレーション上のことは原則として共有できない関係にありながら、その他については相互に支援しあって業務を遂行している姿に感銘を受

けた次第です。

稚内も自然環境は厳しく、冬の寒さは当然として、年間を通して強風が吹き荒れ、天候の急変が一日のうちにも何度起こります。このため、冬季に単独で行動した航空自衛官が敷地内で遭難するという痛ましい事件も過去には起こっています。また、広い敷地内にはエゾシカの群れがいくつかに生息しており、我々の見学の折も数十頭の群れを見ました。もう一つ特筆すべきことは、敷地内で首だけになったエゾシカが発見されたことがあるそうです。ヒグマが目撃されたわけではありませんが、暫くは建物外での単独行動を禁止し、少なくとも三人以上（ヒグマは三人以上ならば攻撃してこないとのこと）です。五人以上ならば安心との経験則？があるとのこと。で行動するような措置をとったとのこと。大変に広大な敷地であり、エゾシカも多数生息することからヒグマがいても不思議ではないと思います。今年には特にヒグマの被害をよく聞きますが、稚内の各部隊の隊員たちは、気象環境だけではない、このような厳しい環境で任務を果たしていることに思いをはせ、感謝するとともにご活躍を祈りたいと思います。

(おわり)

「パプアニューギニアの

こどもたち展」レポート その3

支部理事役 荻原 洋聡

3 展示内容の概要説明

(1)「展示」とは何をすることなのか？
今年7月に始まったこの特別展示「パプアニューギニアのこどもたち

展」は、早くも5か月が過ぎ、今月（11月）末で終了することになります。思いもかけないことに、あーとびる麦生（むぎぎょう）美術館の常設展示に移行することになりました。画才も芸術的な目利きの能力も持ち合わせない「単なる運び屋」の私に、しかも、生まれて初めての展示会という望外の機会と舞台を与えていただいた奇跡に、今改めて驚きと感謝を痛感しています。

そこで、皆さん。皆さんも小学校、中学校時代を過ごした教室の広さを思い出してください（40〜50名が収容できるくらいの会議室スペース）。例えば、その教室・会議室の巨大な空間で、教壇・演壇に一人ぼつんと立ち、その大きな空間と対峙する感覚です。昨年、この企画が固まり、展示会場となる教室の入り口に立った私は、何も無い巨大な空間を前にして、正直、途方に呉れました。

まずは、パプアニューギニアの子ども君たちの絵画を展示するにしても、何をどのように展示して、観て、感じていただけるのか？ に始まり、その空間を「展示物（もの）」で埋めることばかりに意識が向きがちで、頭の中が混乱するばかりでした。そこで、これまで訪れた博物館や、美術館等の展示会の場面を思い出すとともに、改めて博物館、美術館巡りを始めました。巡るうちに気づきを感じたことがあります。

それは、「単に、何（展示物）をどう並べるか？」ではなく、かけがえない人生の貴重な時間を割いてまで展示会場を訪れる来訪者と共に時間空間を共有させていただき、「展示物

を紹介して、自分は何を伝えたいのか？それらを観る人々に、何を主張して、感じていただけるのか？」という原点です。

「感動・感銘・感激」とは、自分が発するものではなく、展示されている作品と空間から発せられる目には見えない力・パワーだということです。この展示会では、主役である「パプアニューギニアのこども君たち」が描いた絵画」の中に秘められたパワーを純粹に感じ取っていただくことが最優先であるべきということです。合わせて、来訪者にとっては未知なる「パプアニューギニアのこども君たち」の世界との接点・巡り逢いに至ったのかという「物語り」として、記憶に残るものになればならぬ。なお善いであろうと想い至りました。

最終的に、お手本としたのは、自身の人生上の師（ヒーロー）である「西堀榮三郎氏」そのものと、滋賀県東近江市にある「探検の殿堂」西堀榮三郎記念館」のメインスペース（展示室）でした。高校2年時の創立記念の講演会は、第1次南極越冬隊長であった西堀榮三郎氏のお話しでした。今にして思えば、わずかに2時間あまりの講演で、私は魔法をかけられたのだと思います。「自分も南極に行つて、ペンギンと握手してみたい！」と。実に単純極まりない想いです。けれども、それが、目には見えない遙か水平線の彼方に在る南極大陸に対する憧れとなり、海上自衛隊へ進むことになった原点でもあり、その果てに「パプアニューギニアのこども君たち」との巡り逢い

に至った物語りの空間として伝えたいという考え方に至ったわけです。

さらに、西堀榮三郎記念館の「核芯」は、記念館の中に移築した、西堀榮三郎氏の自宅（東京）の自室部分そのものの展示空間でした。圧倒されると同時に、そこに西堀さんが居られ、私に語り掛けておられるような錯覚を覚えるほどのパワー、オーラに満ちていました。玄関のドアを開くと、ドアに吊るされたカウベルが鳴り、自室の壁には、西堀さんが生涯愛用したピッケル、帽子などが掲げられていました。日頃使っておられた机の上には、第1次南極越冬中に綴られた分厚い日記帳のレプリカがおりてあり、自筆の記録を手にして読むことができました。また、創造力、探求心を次世代の子ども達に育むために、書棚には来訪した子ども達を読む本があり、大きな引き出しの中には、子どもたちの実験教室用の教材などが備えてありました。まさに、「教室のお手本」だと直感しました。

平塚市総合防災訓練に参加して

支部理事役 藤澤 豊

去る10月18日（土）に平塚市総合公園で開催された「ひらつか消防・防災フェア2025」に参加しました。本フェアは市民の防火・防災啓発を図り、消防・防災行政への一層の理解と関心を高めることを目的として、平塚市が実施したイベントです。今年度は「消防・防災を身近に感じ、楽しく体験しよう」をコンセプトに、市民一人一人の「自助の意識」の向上を目指し、子どもから大人まで楽しく学べる多様なブースをはじめ、消防・警察車両の展示、はしご車・起震車の搭乗体験などが実施されました。当隊友会湘南支部のブースでは、昨年に引き続き萩原会員による液状化実験展示、中根特別会員による非常用生活用浄

化装置の展示・実演を実施し、多くの来場者に足を運んでももらいました。液状化実験は特に子供たちや母親の方々の興味を引き、液状化現象の理解を深めていただけたものと思います。また、浄化装置の実演は、防災関係者の関心を集め、熱心に中根会員に質問する様子が伺えました。スタンプラリー企画による効果もあって、昨年より多くのご家族に我々のブースへ来場いただいたように思えます。引き続き、市民の方々に防災に関する興味や関心を高めて頂けるよう平塚市の活動を支援してまいります。



支部メンバー集合写真

名所旧跡探勝ハイキング実施報告

支部理事役 西村 剛

10月25日（土）靖國神社 遊就館等を研修した。（11・00～14・45）空模様は、あいにくの小雨ではあったが10名の参加を得て（会員6名・一般4名）、予定通りの内容で実施できた。九段下駅から霧雨降りしきるなか靖國神社へ向う。まずは大鳥居（空をつくくよな、大鳥居）と歌われ親しまれた第一鳥居、第二鳥居（大きさは青銅製としては日本一）、神門、中門鳥居、其々にて一礼する。拝殿にて深々と拝礼した後、右手近場に佇む荘厳な外観の遊就館に到着だ。小休止後、いよいよ二時間半を掛けての見学の開始である。

常設の展示会場は膨大で岐にわたる展示内容であり、とても1日で見終えるものではない。期間限定（12月7日（日））の、特別展会場では「終戦八十年戦跡写真展」〔今も残る英霊の足跡〕が開催されており、

現在の戦跡の様子を写真で紹介されている。

二時間半はなんと短いものか、集合時刻となり、玄関ホールでの展示機「零戦」前にて集合写真を撮る。国の為に生命を捧げた英霊の「みこころ」や足跡にふれることができ、心洗われる思いであった。今回は縁故の大学生も4名が参加してくれ、各所の展示物を熱心に拝観しており、「強く感銘を受けた、また、時間を掛けて更に研修したい」との所感を其々に述べていた。これより境内の散策に出發する。



遊就館での集合写真

まずはパール博士顕彰碑（極東国際軍事裁判におけるインド代表の判事であり、戦勝国側の事後法適用に反対し、被告団全員無罪の意見書を提出）の碑文を拝読する。内苑へ足を進めると右手に靖國會館、靖國偕行文庫、靖國教場啓照館、相撲場が続き、本殿背後に造られた神池庭園に入る。

右手に佇む茶室の行雲亭、靖泉亭、洗心亭を眺めつつ、池にかかる直橋（花崗岩の一本物を使った日本一の長さを誇る）を渡ると色鮮やかな大きな鯉が群がっている。

元宮（明治維新で斃れた志士の霊廟）、鎮靈舎（合祀されない方の慰霊舎）、憲兵の碑（戦没の憲兵隊員を慰霊顕彰）と回り、霧雨の中の散策は終了した。その後、懇親会では各自の近況報告や、大学生達の将来の抱負などを交え、話に盛り上がり楽しい一刻を得ることが出来ました。

支部会員による2026第47回神奈川自衛隊音楽まつり協賛

湘南支部長（十一月五日現在）

多くの会員各位から協賛をいただいています。ご協力に感謝申し上げます。牛尾裕春、桜庭憲昭、櫻井貴裕、三澤征治、高橋友行、吉田清人、泉川博、喜瀬美恵子

計53名（順不同・敬称略）

令和7年度年会費納入者（順不同・敬称略）

湘南支部長（十月二十日現在）

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

特別会員 山本哲、
正会員 小林勉、

支部会員の計報

謹んでご冥福をお祈り致します

正会員 故 内藤 晋二氏
令和7年8月25日 ご逝去

「支部の予定」

- ・12/17（水）12月号隊友紙発送
- ・12/20（土）第9回支部理事役会
- ・12/21（日）安全保障トークサロン
- ・01/10（土）第10回支部理事役会
- ・01/18（日）6団体新春の集い
- ・01/19（月）1月号隊友紙発送
- ・02/14（土）第11回支部理事役会

編集後記

10月21日、衆参両院での首相指名選挙の結果、自民党の高市早苗総裁が第104代首相に選出され、憲政史上女性初の高市内閣が発足した。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。